



若小便り



若松小HP用QRコード

令和3年度 若松小学校便り第3号 令和3年6月24日(木) <http://wakamatu.lolita-punk.jp/>

令和3年度重点教育目標 「自尊感情を高め、自ら学び、考え、行動する子どもの育成」

世界と繋がれ/ *What About Me by Moving Pictures 1982*

校長 本谷 弘之

『僕たちは一つの世界、僕たちはその子ども
僕たちこそがもっと明るい日を作り出せんんだ♪』

(抜粋「We Are The World」USA for AFRICA 和訳：本谷弘之)

4月に北海道教育庁から、「オーストラリア・オリンピック委員会の主催で、10歳～16歳の学級で、お互いの生活習慣や文化についての交流等をテーマとした、オーストラリアの同年代の日本語クラスとの交流に参加する学級を募る『オーストラリアン・オリンピックコネクト | ともだち2021プログラム』」の案内が届きました。本校が今年度、全ての教育活動を通して子どもたちに身に付けさせたい、と願っていることのひとつがコミュニケーション力です。なので「ICTを活用したオンラインコミュニケーション能力の育成に結びつくもの」とすぐに応募したところ、タスマニアにあるラーメニア・カソリック小学校で日本語を教えている、K.L.先生と5年生、25名との交流が実現することとなりました。

お互いの学校の子も達が簡単な自己紹介文にイラストを添えた物を事前に交換し、第1回目のオンライン交流をZoomで6月1日の10時半より行いました。その時の様子はHPで詳しく紹介していますのでそちらをご覧ください(「校長ダイアリー」令和3年6月1日分)。



ここで驚いたのが、タスマニアの子どもたちは先生も含め誰もマスクをしていないことでした。あとで調べたところ、タスマニアでは、この時点でコロナ感染者の1週間の平均が0なのです。どうして?とさらに調べると、オーストラリアでは州境閉鎖や州境規制が状況に応じて頻繁に行われています。また、感染者が生じるとすぐにロックダウンを行うなどの措置がとられているようで、原稿執筆時点ではオーストラリア全体での感染者数は1日12人程度だということでした。これでタスマニアの子どもたちが誰もマスクをしていない

ことに納得です。そんな**自分の住む国との違いに気付き、なぜ?と調べることは、子どもたちの視野を広げる**ことに繋がります。前号で紹介したSDGsとも関連しますが、単に他国の風習や文化の違いに触れるだけでなく、マスクというコロナ感染対策の違いから**地球規模で物事を考える**よい機会が得られたと、私たちはこの活動の意義を違う角度からも捉え直すことができました。

2回目のオンライン交流はすでに計画済ですが、その後も子どもたちの繋がりが少しでも深くなるまで何度か継続していく予定です。今後も途中経過はHPで紹介していきますのでご覧下さい。いつか、この子どもたちが社会に出て、共に仕事に携わる機会ができれば、なんてすごいことですね。

※Moving Picturesは、1980年に結成され翌年発表したアルバムが国内1位となったオーストラリアのロックバンド。What About Meはそこからシングルカットされ国内1位、アメリカで29位となった名曲(だと私は思うのですが...)。映画ワイルドの挿入曲で有名になったNeverも彼らの曲で、日本ではドラマ「不良少女と呼ばれて」の主題歌となり有名になりました。

令和3年度学校経営方針の説明(第3回)

延長となった「緊急事態宣言」ですが、本原稿執筆時は、その成果か上下動はありますが、感染者数は右肩下がり傾向が見られているようです。このままワクチン接種が続いて、収束から終息に向かってくれるといいですね。さて今回は、学校経営方針をどう具体化するのかについて触れてみます。前号での終わりに、**具体化は、「学びを育む」「心を育む」「体を育む」「地域と育む」の四本柱で計画**していると紹介しました。今回は、そのうちの「学びを育む」についてです。※は説明のために付け加えました。

学びを育む

○学習スタイルの定着【研究部・学習指導部】

- ・北檜山小学校・中学校に準じた「学習のきまり」の指導 ※進学先・統合先での生活に配慮

○基礎・基本の定着【研究部】

- ・年間2回のCRTテストと、チャレンジテストの活用 ※1回目の検査結果は懇談時に配付
- ・「ジブンde勉強」「英語deトライ」の活用 ※1人1台端末の活用と、A L Tの活用による
- ・外国語授業の充実（外国語活動推進教師）

※A L Tと詳細な打合せを行い個別最適化を図る授業へ

○教育の情報化の取組【教務部・研修部】

- ・ICT機器の日常的活用
- ・プログラミング教育の充実
- ・1人1台端末を活用したオンライン授業の活用
- ・積極的なeラーニング教材・コンテンツの活用



○授業研究・授業改善【研究部】

- ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫改善 ※昨年度からの学校研究主題
- ・児童による授業評価の活用
- ・コミュニケーションの充実に向けたI C T活用 ※巻頭言に記したタスマニアとの交流等

○家庭と連携した学習習慣の確立【学習指導部】

- ・「家庭学習のすすめ」と「家庭学習ファイル」を活用した家庭学習の充実

○読書指導の推進【学習指導部】

- ・読書量の視覚化による読書活動の推進
- ・北小ブックフェスティバルへの参加
- ・読書に触れる環境づくり～学級文庫の設置



○キャリア教育の推進【教務部】

- ・キャリア・パスポートの活用
- ・自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを感じる場の設定
- ・積極的に関わりをもち、社会性を身につける場の設定 ※心の教育にも絡めた指導を行う



閉校の年。私たちが望むのは、進学先、統合先で子どもたちが困り感を抱かないことです。そのための一つとして、ここでは「学ぶ力」について取り上げました。わからないことがあった時、自分で調べて学び、理解する力を、例年以上にしっかり身に付けさせる指導を意識したい。そのためにも、特にI C Tに関する面で、他校では難しいけれど「若小の人数だからこそ出来る」という経験も多く取り入れているところです。

閉校記念運動会特集

6月13日（日）は、前日の雨が嘘のように晴れ渡り、予定どおり午前9時に入場行進から若松小学校閉校記念運動会が始まりました。今年は、若松小学校最後の運動会という



ことで特別な思い出を残そうと、ただの紅白対抗ではなく、子ども対保護者（子どもには中学生のお兄さんお姉さんも含む）という身内対決の運動会。さらに競技によっては、地域の方々にも加わっていただいで地域ぐるみの紅白対抗戦となりました。



開会式では、児童会長のU.Y.さんの立派な挨拶や2年生のMさん、3年生のTくんによる堂々とした選手宣誓が会場の空気を引き締めてくれました。児童による応援団も練習以上に力強く声を響かせていました。徒競走では、児童だけでなく、急きょ中学生や高校生にも参加をお願いし、力強い走りを見せてもらいました。



紅白玉入れは、地域の方々にも参加していただき、密にならないように5人ずつの対抗戦を複数回行いました。運命走での個人競技での得点も加えていくと、途中経過はなかなかの接戦で、どちらが優勝してもおかしくない様子。



そんな今年度の運動会での最初で最後の取組が、「若小パレード」と題した児童5人による鼓笛隊。太鼓を叩いたり、鍵盤ハーモニカを吹いて隊形変換をしたりとなかなか本格的な演技を完成させてくれました。また、昨年度は取りやめましたが、今年は例年行っていたように「YOSAKOIソーラン」に、児童の演技のあと地域の方々にも参加していただき、大きな盛り上がりを見せてくれました（ホームページでは、児童の演技を若小パレードとともに動画で紹介しています）。



「大玉リレー」、そして「紅白リレー」と最後まで熱戦は続き、見事に子どもチームの赤組が、若松小学校最後の運動会の優勝を飾りました。閉会式には、児童会副会長のI.K.くんがしっかり感謝の言葉を伝えてくれたとおり、今回の運動会開催にあたり、地域や保護者の方々の様々なご協力をいただいたこと、あらためてここで感謝の意を表します。本当にありがとうございました。また、当日は、しっかりと感染対策にご協力いただいたことに対しても感謝いたします。



運動会に先立ち、5月中に、全校児童が現在の個々の運動能力を確認するため新体力テストを行いました。その結果、ほぼ全ての種目で全国平均を超える成績がみられましたが、20mシャトルランの結果が全国平均より低く、さらには昨年度の自己記録よりも低い結果となりました。また、反復横跳びでは、ほぼ全国平均より高いものの、これも昨年度の自己記録より低下がみられたため、6月から敏捷性・瞬発力と持久力を高めるための運動を取り入れることとしました。秋に2回目を行う新体力テストの結果に成果として表れてくれることを期待しています。

あらかると



じさんの水田をお借りしての「田植え体験」、水仙ロードレースに代わる若小独自の「若小フレンドリーラン」、農業センターでの各種野菜の苗植え、閉校式に向けた桜の押し花作り、たくさんの関係者の方々にご協力いただき終了することができました。ありがとうございました。詳細についてはホームページをご覧ください。

思い出の一冊

2・3年生担任 青木 志暢

絵本に興味を持ったのは、短大時代のゼミで「絵本論」をテーマに仲間たちと活動したことがきっかけでした。私は、児童科でしたので、子どもを相手に読み聞かせをしたり、ペープサートを使い演出をしたり、幼児の反応を見ては絵本の魅力にとり憑かれ、研究を重ね、絵本を集め出したのもこの頃からです。

「泣いた赤おに」 浜田広介

昔話に出てくる鬼は乱暴、欲張り、意地悪・・・と悪いイメージですが、特に悪いこともしていないのに、バッドエンドを迎えたのが「泣いた赤おに」です。彼は鬼であっても心優しく、でもそんな彼が大切な友人を失ってしまうお話です。友人を失うなんて思いもしない赤鬼は青鬼の提案にのり、そこでは2人の友情すら感じる場面なのに。青鬼は犠牲となり、赤鬼から離れましたが、本当は鬼同士仲良くやっていきたかったのではないかと感じてしまうのです。赤鬼が人間たちと仲良くなりたいたいなんて、ジェラシーを抱いたのではないかと・・・。

赤鬼と青鬼の視点に立って考えるとどちらも複雑で深読みすればするほど、何が正しいのか、間違いなのかわかりません。読者の自由でいいのかな・・・と思うようにしています。

思い出の一冊なのは、私はこの絵本を北檜山幼稚園の卒園式で頂いた物だからです。今から何年前？？絵本は読み捨てられずに語り継がれていくものです。大事にしています。



7月の行事予定 (※今後の情勢により変更になる可能性があります)

日	曜	行事予定	バス	日	曜	行事予定	バス
1	木	全校集会(業間)、安全点検日	14:40	17	土		
2	金	避難訓練、一日防災学校	14:40	18	日		
3	土			19	月	閉校記念日	
4	日			20	火	(川の遠足予備日)	14:40
5	月	児・委(業間)、水泳学習①	14:40	21	水	スペ水、クラブ①、PT来校日	14:40
6	火	発表集会(高学年)	14:40	22	木	海の日	
7	水	クラブ打合せ(業間)、参観日	13:50	23	金	スポーツの日	
8	木	農業センター②	14:40	24	土		
9	金	川の遠足(サケ公園)	14:40	25	日		
10	土			26	月	終業式、学校レク13:30~	12:00
11	日			27	火	夏季休業 若松寺子屋① 9:00~	
12	月	水泳学習②	14:40	28	水		
13	火		14:40	29	木		
14	水	児童会・委員会(業間)	14:40	30	金		
15	木	修学旅行(1日目) 北小集合 6:30	14:40	31	土		
16	金	修学旅行(2日目) 北小到着17:30	14:40				